

平成 20 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査  
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

# 目 次

I 調査の概要	1
II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要	1
III 教科別調査結果の概要	
国 語	2
社 会	4
数 学	5
理 科	7
英 語	9
* 得点の度数分布グラフ	11
* 平均点推移グラフ	17
* 正答率調査表	19

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

平成20年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育向上のための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

### 2 実施日、調査教科

平成20年3月5日（水）

国語（55分）	9：30～10：25
社会（45分）	10：40～11：25
数学（45分）	11：40～12：25
英語（45分、うち「リスニング」約10分）	13：30～14：15
理科（45分）	14：30～15：15

### 3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受検した者全員4,814人（男子2,673人／女子2,141人）を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は487人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たっては、全ての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

## II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要

### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、応用力をもみることができるよう出題すること。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないようにし、理解力、思考力、観察力、分析力等を検査することができるように工夫すること。
- ④ 全県的視野にたつて出題し、地域差による影響が生じないようにすること。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

### 2 得点別にみた度数分布

総合得点の平均点は304.1点で、前年度より30.7点高い。最高点は487点、最低点は75点であり、その得点分布は（図1-1 P11）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は304.8点（前年度比+30.8点）、女子は303.1点（前年度比+30.4点）で、男子が女子より1.7点高い。その得点分布は（図1-2 P11）に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成16年度から今年度入試まで5年間の全体平均点は（図1-3 P17）のように推移している。各年度ごとの難易度に差があり単純な比較はできないが、過去5年間では最高を示している。

## Ⅱ 教科別調査結果の概要

### ○ 国 語

#### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び言語事項の、国語における基礎的・基本的な学力を検査できる問題を選定した。
- ② 説明的な文章は、古文と比較しながら読み、目的に応じて的確に読みとる能力について検査するとともに、書き手の見方や考え方を正しく捉えることができるかを検査する設問を用意した。
- ③ 文学的文章は、小説を題材として、作品で用いられている語句の意味や、内容を正確に捉えることができるかについて、また、作品内容の読み取りを踏まえ、自らの考えを論理的に書き表すことができるかどうかについての設問も用意した。

#### 2 得点別にみた度数分布

全体の平均点は65.4点で、昨年に比べて6.5点高い。最高点は97点、最低点は13点で、その得点分布は(図2-1P12)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は63.7点、女子は67.4点で、女子が男子より3.7点高い。その得点分布は(図2-2P12)に示すとおりである。

#### 3 平均点の推移

平成16年度から今年度まで5年間の全体平均点は、(図2-3P17)のように推移している。平成19年度から学力検査の仕組みが変更になったため、5年間を同一の視点で比較することはできないが、平年並以上の平均点となっている。平均点そのまま、受検生の国語力そのものの指標ではないが、各設問についてしっかり取り組んでいる状況があり、それを反映したものといえる。

平均点の男女別比較で見ると女子は男子を3.7点上回っている。平成18年度以前には男女の平均点差が5点程あったが、昨年以来、男女の平均点差は3点前後になる傾向が見られる。

#### 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P19)

##### ㊦ 言語事項(漢字・書写・語彙)

一、二では基本的な常用漢字の読みと書取りを出題した。全般的によくできているが、「脈絡」が読めなど、やや抽象度の高い語句についての読み書きの力は、必ずしも確実に身につけているとは言い難い。

三の書写については、(1)の行書の「りっしん偏」書き順や(2)の楷書「熟」の総画数の問題とも正答率は80%であり、良くできていた。

- ##### ㊦
- 一はインタビューで、相手の話の中心点をすばやくとらえて、自分の目的にかなうよう再度問い返していくことを問う問題であり、二は敬語を適切に使用することを問う問題であり、正答率は38%であった。「話すこと・聞くこと」については、学習成果を具体的に活用する点に課題があると思われる。

### 三 説明的文章 出典「日本文化における時間と空間」加藤周一

一は、空欄の言葉を文章の展開に即して捉える内容把握の問題で、正答率は81%であった。

二は、擬声語を文脈の中で捉えられるかを問う、言語事項に関する問題で、正答率は46%であった。

三は古典語の読み方を問う言語事項の問題である。これの正答率は87%であり、良くできている。

四は文章の展開に沿って内容をとりえて、語句の主語を確認する問題だが、正答率は49%とやや低い。

五も文脈の中における語句の意味を正しくとらえ、論理の展開を工夫しながら書くことができるかを問う問題だが、正答率は21%とかなり低い。

六も文章の展開を確かめながら、要旨をとらえることができるかを問う選択肢の問題であった。正答率は51%であった。

### 四 文学的文章(小説) 出典「きみの友だち」重松 清

一は、文脈の中の語句の意味を問う言語事項の問題で、正答率は76%であった。二は象徴的に表現

された言葉を、文脈に沿って類推できるかを問う内容把握の問題で、正答率は37%であった。三は、

文脈の中における語句の効果的な使い方を理解し、対照的な語・修飾語の意味を理解できるかを問う言

語事項に関する問題で、正答率は54%であり、良くできていた。四は、文の展開を正確にとらえ、

内容を理解したうえで、まとめることができるかを問う内容把握に関する問題で、正答率は60%であ

った。これも良くできていた。五は、展開の仕方を的確にとらえて内容を理解できるかを問う問題で、選

択肢から正解を選ぶ問題であった。正答率は94%と非常に良くできている。六は、文脈の中における語

句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に関与されるかを問う問題で、正答率は93

%であった。七は、表現の仕方や文章の特徴を把握し、文章の形態や展開の違いに気づくことができ

るかを問う、表現に関する問題であり、正答率は64%であった。八は、主に書くことに関する問題で、

「友だち」についての考えを広げたり深めたりして、自分の考えを論理的に記述できるかを問う問題であ

った。正答率は55%であり、やや低い。

## 5 全体を通しての考察

基本的な常用漢字の読み書きなどは、よく身に付いている。書写では、漢字の書き順や漢字の構造に関する知識は不十分な面がある。また、語句や文の構造など文法事項については、今後一層の学習の定着が望まれる。

総じて、正答を選ぶ選択式の正答率は高く、自ら解答を書く場合の正答率は低い傾向が顕著である。

今後は、「情報の正確な取り出し」ととどまらず、文全体との関係に基づき、語句をきちんと「解釈」することや、自らの経験や既習の知識との比較・総合を行う「熟考・評価」に積極的に取り組む必要があるように思われる。

## ○ 社 会

### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野にわたって、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。
- ② 写真、図、表、グラフなどの資料を通して、思考したり、判断したり、表現したりする力を問い、また多面的・多角的な資料活用能力を問うようにした。
- ③ 興味・関心に応じて選択のできる問題を採用入れた。
- ④ 中学校学習指導要領の趣旨にそった出題に心がけるとともに、身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ採り入れるように配慮した。

### 2 得点別にみた度数分布

平均点は60.4点で、前年度より2.7点高い。最高点は100点、最低点は6点で、その得点分布は（図3-1 P13）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は61.4点、女子は59.2点で、男子が女子より2.2点高い。その得点分布は（図3-2 P13）に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成16年度から今年度まで5年間の全体平均点は（図3-3 P17）のように推移しており、各年度ごとに難易度に差があり単純な比較はできないが、昨年に引き続き成績は上昇した。また男女別比較でみると男子が女子を上回る傾向が続いている。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P19）

#### ① 地理的分野

地図・写真・統計資料など複数の資料から、県の位置、農産物、日本と同緯度の国、気候を把握するなどの基礎的・基本的事項は正答率が高い。また、人口に関する統計資料をもとに人口密度を求め、凡例に従って作図することも概ね定着している。しかし、選択肢の文から適切な解答を導き出すことや、地図や文章から気候の特色を記述する問題は、予想よりも低い正答率であった。

#### ② 歴史的分野

日本の歴史学習に関する基礎的・基本的事項は概ね定着している。しかしその一方で、時代ごとに大きな流れを把握する力が若干弱いように思われる。ある時代の代表的な建築様式で建てられた寺院の写真をもとに仏教の名前を判断する問題や、ある時代の国民生活の様子を示す写真をもとに政策の名前を判断する問題などで、正答率が低かった。

#### ③ 公民的分野

基礎的・基本的事項を問うた部分や日頃から環境問題や福祉問題に興味・関心を持つ姿勢、グラフの作図、資料や写真から正答を導く知識の活用力を問う問題の正答率は概ね高かった。半面、日本国憲法の人権（社会権）や政治の仕組み（三権分立と内閣）を問う問題を出題したが、予想を下回る正答率であった。

#### 4 三分野総合

表から北海道の農業の特色を読み取る問題、漁獲量の高い道県を示した略地図を選ぶ問題の正答率は高く、資料を読み取り表現する基礎的な力は身に付いてきている。一方、複数の事象を比較・関連付けして「寛政の改革」や函館の位置を特定する問題では、予想よりも低い正答率であった。

#### 5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な部分に関する知識や理解力、資料活用の技能・表現力、思考・判断力は身に付いている。また環境・福祉問題等の現代的な課題に対する関心・意欲・態度の高まりも見ることができる。これらが、平均点を上昇させた要因と推測できる。

しかし、地理的分野では複数の資料から知識を導き出したり、作図をしたりする力は身に付いているが、知識や技能を活用し、文章を読解したり、表現したりする力が不足していると考えられる。また歴史的分野では、特にその時代の特徴を大きくとらえて理解することが必要であると思われる。

それゆえ、基礎的・基本的な知識・理解のより確実な定着を図るとともに、それに基づいたより発展的な資料活用能力や思考・判断力を伸張させることが一層求められる。

## ○ 数 学

#### 1 出題のねらい、配慮事項

数と式、図形、数量関係の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や数学的な表現・処理の能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう、次の点に配慮して出題した。

- ① 身近な課題に対して、主体的に解決する場面を設けた。
- ② 数学的な見方や考え方を活用し、解決する場面を重視した。
- ③ 複数の領域にわたって総合的に考える場面を設けた。
- ④ 思考過程や問題解決の手順などが検査できるように、記述式の解答形式を取り入れた。

#### 2 得点別に見た人数分布

平均点は54.0点で、前年より11.5点高い。最高点は100点、最低点は0点で、その得点分布は(図4-1P14)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子55.2点、女子52.5点で、男子が女子より2.7点高い。その得点分布は(図4-2P14)に示すとおりであり、66点以上において、男子の度数が女子の度数を比較的大きく上回っている。

#### 3 平均点の推移

平成16年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図4-3P18)のように推移している。いずれの年度においても男子の平均点は女子の平均点より2点程度上回っている。学習指導要領の移行措置以降、数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題を多く取り入れてきたが、全体では40点台を推移してきた。本年は50点を超えた。

#### 4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P20）

##### 1 「数と式」の基礎的・基本的な数式の処理ができるか。

全体的には高い正答率であった。6問中5問が80%を超え、そのうち3問は90%を上回った。最も正答率の低いものは、分数を係数に持つ単項式の乗法の問題であったが正答率は78.9%であり、基本的な計算処理については、ほぼ十分な定着がうかがえる。

##### 2 基礎的な数学的知識に基づき、表現・処理することができるか。

5問中3問が85%を超え、概ね十分な正答率であった。文字を用いて表現する問題、二次方程式、作図の正答率は高く87%以上であった。しかし、比例のグラフの問題については、69.0%であり、約分をしてない誤答や座標の数値と傾きやy切片を取り違えている誤答などが多く見られた。分野による差がみられる。

##### 3 身近な事象から考察し、場合の数や確率を的確に求めることができるか。また、思考過程を樹形図を用いて説明することができるか。

枝問1(1)・(2)は想定を大きく上回る正答率であったが、枝問2は想定を8%程度下回った。枝問1(1)のように決められたゲームのルールを読み取り、その規則に従って簡単な事象の確率を求めたり、枝問1(2)のようにその規則を運用して与えられた結果となる場合を考える能力は想定以上であった。ただし、問2のように思考過程を樹形図を用いて説明することを求めた問題では、無答率が30%程度あることから、規則性を数学的に考察し、その過程を表現する意欲と能力が不十分であると考えられる。

##### 4 身近な図形から、規則性を見だし、考察し、的確に表現・処理することができるか。また、2つの数量の関係について考察することができるか。

全ての枝問にわたって大きく想定正答率を下回った。枝問1・2(1)では三角形や多角形の性質を利用して扇形の面積を求め、円の面積と比較する問題であったが、基本的な図形の知識や比の扱いが不十分である。枝問2(2)の規則性を利用し、数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかを問う問題で、規則性の考察を通して文字式に表現することを求めたが、正しく求められた受験生は想定を大きく下回った。また、枝問2(3)で2つの数量の関係について問う選択問題についても想定を下回っている。ものごとをじっくり考察し、数学的なものの考え方を生かして規則性を見だし、課題を処理していく力が不十分であると考えられる。

##### 5 関数のグラフについて、図形の性質と総合して考察することができるか。

枝問1・2は想定を上回る正答率であったが、枝問3は想定を大きく下回った。枝問1は関数  $y=ax^2$  のグラフが通る点の座標から、比例定数を求めることができるかどうか、また、枝問2はグラフの性質を利用し、2点の座標から直線の式を求めることができるかどうかを問う問題であったが、関数のグラフの基本的な学習事項については概ね十分な定着がうかがえる。しかし、枝問3は関数のグラフ上の点と基本的な図形の性質を総合して考察し処理する問題であるが、いろいろな分野の知識を総合的に活用する能力が不十分である。

##### 6 空間図形を多面的に観察・考察し、的確に処理することができるか。空間の中にある平面図形の性質を、論理的に考察して推論の過程を表現することができるか。

全ての枝問で想定を下回る正答率であった。枝問1・2は、基本的な空間図形の体積比や体積を求める問題であるがともに正答率は50%に満たなかった。枝問3(1)は、空間の中にある平面図形の性質を利用して2つの三角形の相似を証明する問題であるが、最も基本的な証明問題の1つであるにもかかわらず想定正答率を大きく下回った。このことから、論理的に考察したり推論の過程を表現したりする能力が不十分であると考えられる。また、枝問3(2)に見られるように、空間図形を多面的に捉えることが不十分である。



## 5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な知識や技能については、ほぼ十分な定着がうかがえる。しかし、数学的な見方や考え方が要求される設問や複数の領域の内容を総合して扱う設問での正答率が低い傾向がうかがえる。単に問題を処理するための知識や技能の習熟にとどまらず、身近な場面や数学的な事象に、基礎的・基本的な知識や技能を積極的に活用することにより、数学的なものの見方や考え方を磨き、創造的な思考力を身につけることが求められる。また、ねばり強く考えることや、自らの考えを言葉や式、図形などを用いて数学的に表現したり説明したりすることを習慣化することが必要である。

## ○ 理 科

### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「自然に対する関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う」に留意した。また、理科への興味・関心、思考力・判断力、表現力等が見られるように配慮した。
- ② 全学年にわたり、第1分野、第2分野の全領域から偏りのないよう、学力が検査できるようにした。
- ③ 観察、実験を重視し、自然の事物や現象を理解するための基礎的・基本的事項についての学力が検査できるように配慮した。
- ④ 思考過程や問題解決の手順など論理的な思考力が検査できるようにした。
- ⑤ 日常的な自然現象に関心をもち、学習したことを基に考えようとする力を検査できるように配慮した。
- ⑥ 身近な材料を使い学習内容を確認することで、理科の実用性を感じることができるよう配慮した。

### 2 得点別に見た度数分布

平均点は、70.1点で前年より13.6点高い。最高点は100点、最低点は5点で、その得点分布は(図5-1 P15)に示すとおりである。男女差は2.4点で男子が高かった。

平均点を男女別に比較してみると、男子は71.2点、女子は68.8点で、女子が男子より2.4点低い。男女別の得点分布は(図5-2 P15)に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成16年度から今年度までの5年間の全体平均は(図5-3 P18)のように推移している。平成19年度から平均点の上昇がみられるが、問題文の文章量や、複雑な計算を要する問題を減らしたことで、考える時間を十分にとれるようになったためではないかと考えられる。

また、男女別比較でみると、毎年女子が男子を下回っている。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P20)

#### ① 地震に関する問題

地震に関する初期微動、主要動、マグニチュードなどの基本的な用語の内容を理解しているか、また、それらを活用して、揺れ始めるまでの時間と震源からの距離や、震源からの距離と初期微動継続時間の長さとの関係を見いだすことができるかを確認した。非常によく理解できていた。

#### ② 身のまわりの物質の性質に関する問題

様々な器具の材料として用いられる「金属」と、食品に関係する「有機物」を題材として、これらの性質についての基本的な知識・理解があるかを確認した。密度と体積の関係では、理解がやや不十分であった。

③ 動物の仲間分けに関する問題

セキツイ動物の特徴を、呼吸、子の生まれ方、体温の視点で比較、整理、検討する能力や、恒温動物の特徴を理解しているかを確認した。基本的な問いでも、3のように問い方を変えると正答率が下がる傾向が見られた。

④ 音、電磁誘導、エネルギーに関する問題

モノコードとマイクを題材に、音の性質と電磁誘導の基本的知識や思考力を問う問題で、マイクという身近な機器を通して、電磁誘導の基本的な事項と、発電のしくみについての理解度をはかった。原子力発電のエネルギーの移り変わりに関しては、理解が不十分であった。

⑤ 生物の殖え方に関する問題

身近にあるジャガイモを例に、被子植物の受精や、生殖方法の違いについて、親の染色体の伝わり方という観点からとらえることができているかを確認した。無性生殖の親と子の形質の関連について、説明できない生徒が目立った。

⑥ 天気の変化に関する問題

毎日かわりがある天気という現象についての天気図記号の表し方や、基本事項として「気温と湿度の関係」、「寒冷前線」について正しく理解しているかを確認した。天気用図記号を正しく描ける生徒が少なかった。

⑦ 気体の性質と化学変化と物質の質量に関する問題

「分解」からの出題であった。実験からの出題とすることで、実験技術について正しい基礎・基本が身に付いているか、また、化学変化における質量比などが正しく理解できているかを確認した。特に、化合における整数比を求める問題では正しい計算ができない生徒も目立った。

⑧ 運動の規則性に関する問題

斜面を転がる小球の運動を通して、実験のデータ処理能力、エネルギーの変化と力学的エネルギーの保存、速さの変化と斜度の関係が理解できているかを確認した。図から速さを求める問題では無答がやや目立ち、正答率も低かった。力学的エネルギーのグラフを選択する問題、転がる時間を考察する問題の正答率も低く、いくつかの実験を比較・考察する力に課題が見られた。

5 全体を通しての考察

中学校の学習指導要領に示された目標・内容に則して、全分野から基本的な学力を測る問題であった。覚えたことをそのまま答える問題や問題集等に多く見られるパターン化された問題については例年正答率は高いため、基礎・基本ではあっても、パターンとは違う角度からの問いや、分野をまたがる問題を作成し、知識としての定着や活用能力も測れるよう工夫した。その結果、基礎・基本については非常に高い定着率が見られ、昨年より平均点が上昇した。一方で、活用能力に関しては課題が残った。身近に起こる様々な現象を科学的に考察する態度を基盤とした、活用能力の育成が望まれる。

## ○ 英 語

### 1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている外国語の目標および内容に即して、基礎的・基本的な事項の理解度を評価できるように配慮し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって出題し、総合的な英語の学力が検査できるようにした。
- ② 学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」などの実践的コミュニケーション能力を重視していることから、リスニングテストに言語の使用場面や発話の意図に関わる問題を新しく入れ、リスニングテストの比重を30%とした。
- ③ 「読むこと」については、使用語数を増やし長文化を図るとともに、生徒の英語を理解する能力を様々な方法で検査できるようにし、問題数を増やした。また、条件英作文や自己表現を促す問題を入れることによって、実践的コミュニケーション能力の重要な要素である「表現力」も検査できるように配慮した。自己表現に関する設問の採点にあたって、コミュニケーションを妨げないようなミスは減点の対象としないこととした。

### 2 得点別に見た度数分布

平均点は54.1点で、前年より3.8点低い。最高点は100点、最低点は4点で、その分布は(図6-1 P16)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は53.2点、女子は55.2点で、男子が女子より2.0点低い。男女別の得点分布は(図6-2 P16)に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成16年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図6-3 P18)のように推移している。

今年度平均点が下がった理由としては、大問3の実音テストの出題形式を大幅に変更したこと、大問4及び5の英文の使用語数を増やし長文化を図ったこと、様々な角度から理解を確認するため問題数を増やしたこと、大問5の英作文が環境問題を扱っており抽象度の高いものであったこと、などが考えられる。

また、男女別比較でみると、女子は男子を上回っているが、今年度においては、その差は2.0点と、昨年度(3.7点)に比べて、縮まっている。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P21)

#### ① 「聞くこと」に係る問題

英文を聞き取り、その内容に係る絵を選ぶ問題。日常生活でよく目にする物事に関する英語の説明を聞き、それが何の説明であるのかを聞き取る問題である。音声とイメージを直接結びつけることにより、英文を聞き取る基礎的能力を検査できるようにした。

正答率は全4問平均で76.5%で基本的な聞き取る能力は良好といえる。2の正答率が38%と特に低かったのは、火曜と木曜の区別と、教科の並び順の二つの要素があったためではないかと考えられる。

#### ② 「聞くこと」「話すこと」に係る問題

英文を聞き取って、その内容に関する質問の答えを、放送される選択肢から選ぶ問題。基本的な日常会話表現を中心に、英語で表現するための能力を評価できるようにした。

平均正答率は、65.3%である。日常的な表現はほぼ定着していると考えられる。

③ 「聞くこと」「話すこと」に係る問題

従来の形式を変更した。様々な場面でのコミュニケーション能力を検査したり、言語の使用場面や発話の意図を理解できるかを評価するため、短い会話を聞いて問いに対する答えを選ぶ問題にした。

7問の平均正答率は68.7%である。3の正答率が4.4%と低かったのは、時間の計算という要素を加えたためと思われる。

④ 「読むこと」「書くこと」に係る問題

国際理解の観点から、外国語指導助手が日本に来て感じたこと、日本人が海外で感じたことを、それぞれスピーチするという状況を設定した。語数は従来よりも増やした。

英語を運用する上で必要な基礎的言語材料についての知識や、文脈を把握する能力、英文を要約する能力、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力を評価できるようにした。

設問1の①の正答率が29%だったが、現在完了形についてはforを用いる表現になじんでいてsinceを用いた表現にはあまり触れていないためと思われるが、ともに重要な表現であり、今後の課題といえる。

設問2の英作文は、0点の者が46%であった。比較的単純な構造の英文であるので基本的な英文を書く力に課題があるといえる。

設問4のCは、take 人 to 場所という構造のtoを答える日常的なものであるが、正答率が38.4%であり定着が十分とはいえない。

設問5の英作文は、零点の者が44%であった。英文の構造としては、設問2の文章よりも複雑であるが、正答率はよい状況であった。

⑤ 「読むこと」「書くこと」に係る問題

月周回衛星「かぐや」が撮影した画像をテレビで見た中学生が感じたことを友達にメールで知らせるという場面を設定した。質問の答えを選択させたり、段落ごとに内容をつかませたり、要約を完成させたりして、様々な観点から生徒の英文を理解する能力を評価できるようにし、問題数も増やした。

また、地球を美しく保つためにできることを4つの英文で書くことによって、基礎的な表現力を評価できるようにした。この設問では、コミュニケーションを妨げない綴りのミスなどは減点しないこととした。

設問4は要約問題であるがAとCの正答率がそれぞれ7%、5%と極端に低くなっている。答えがpurposes, environmentalと教科書に載ってはいるが、長くまた身近な語ではないため、定着が十分でなかったと考えられる。

設問6は地球を美しく保つためにできることを4つ英語で書くものであるが、4文書いた者が31%あった。ただし、零点の者が56%あったので、正確に伝えるということを意識して書く練習をする必要があると思われる。

5 全体を通しての考察

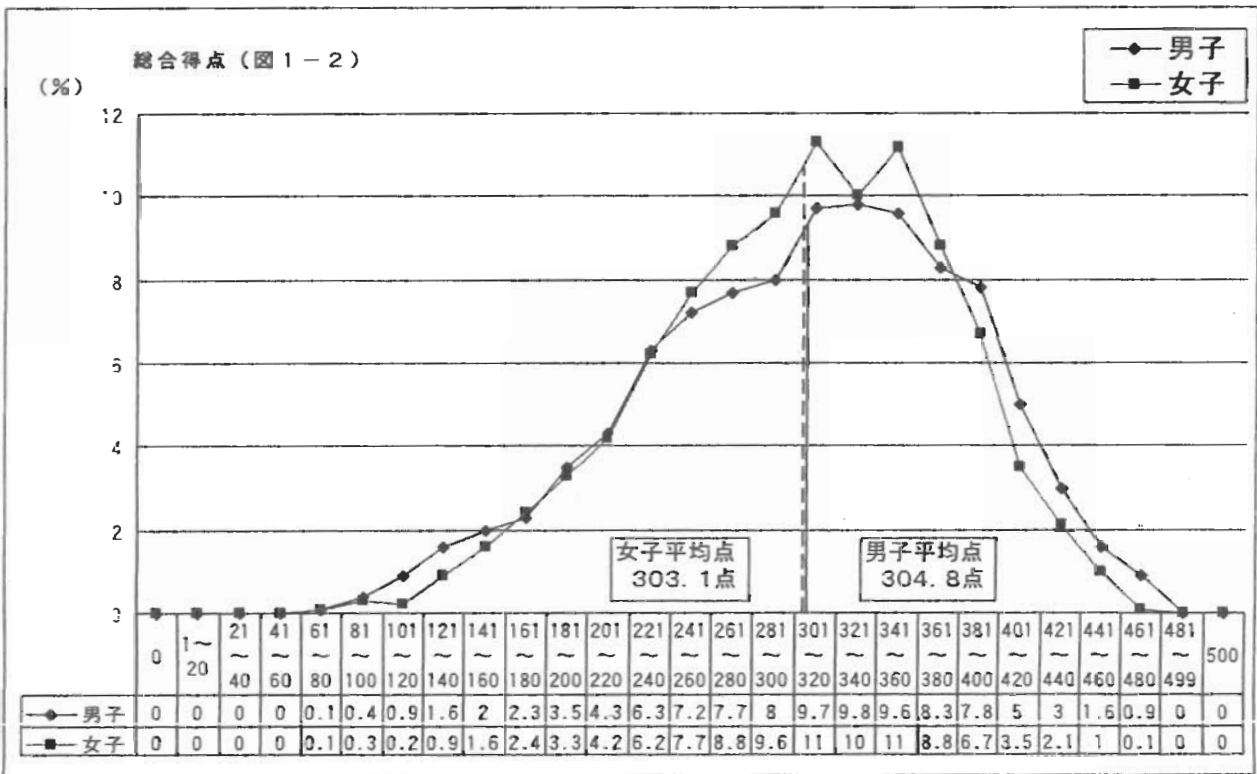
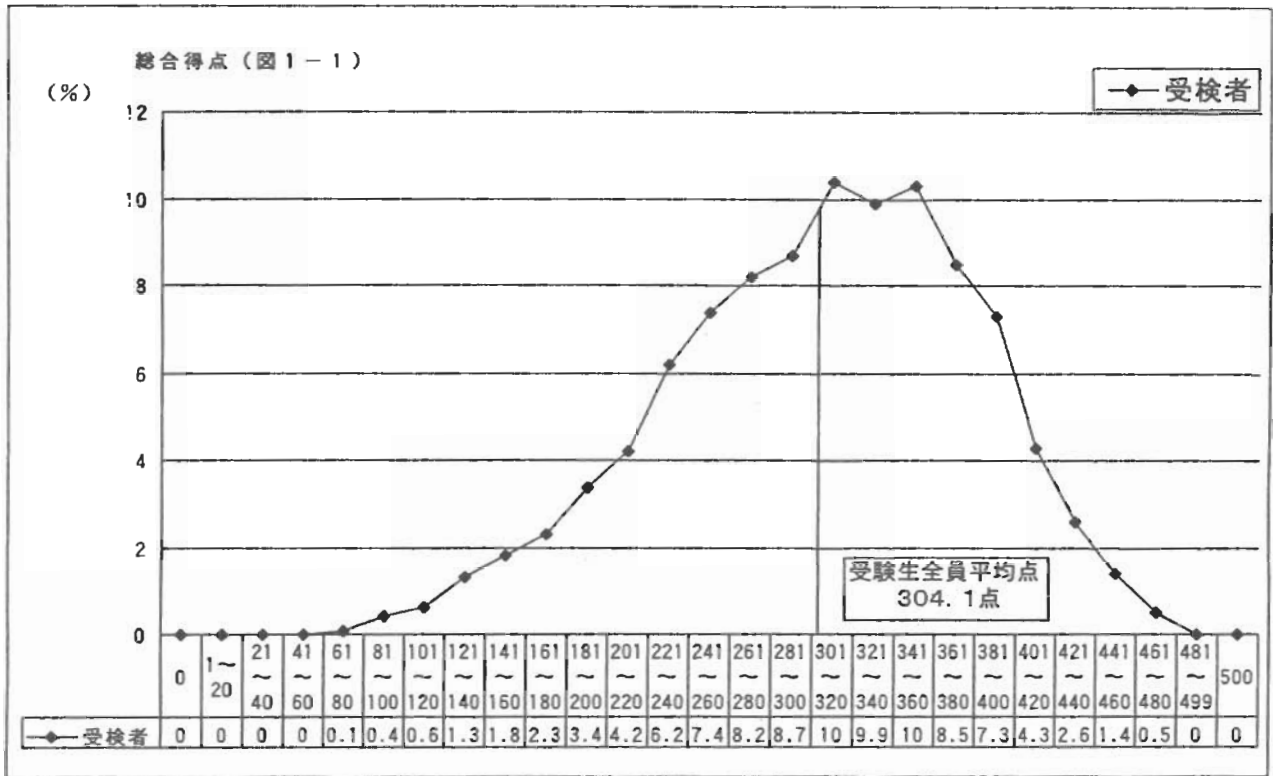
「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域について、知識・理解に偏ることなく、基本的な英語運用能力を検査できる問題とした。

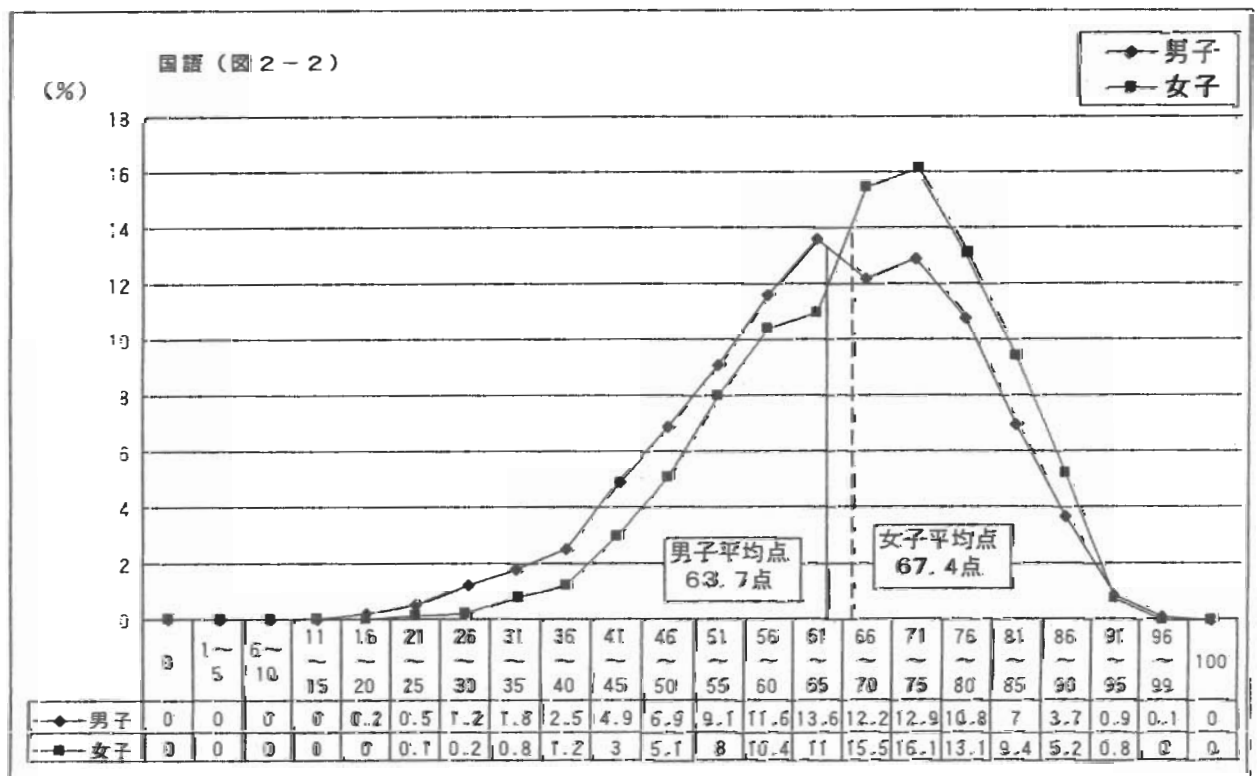
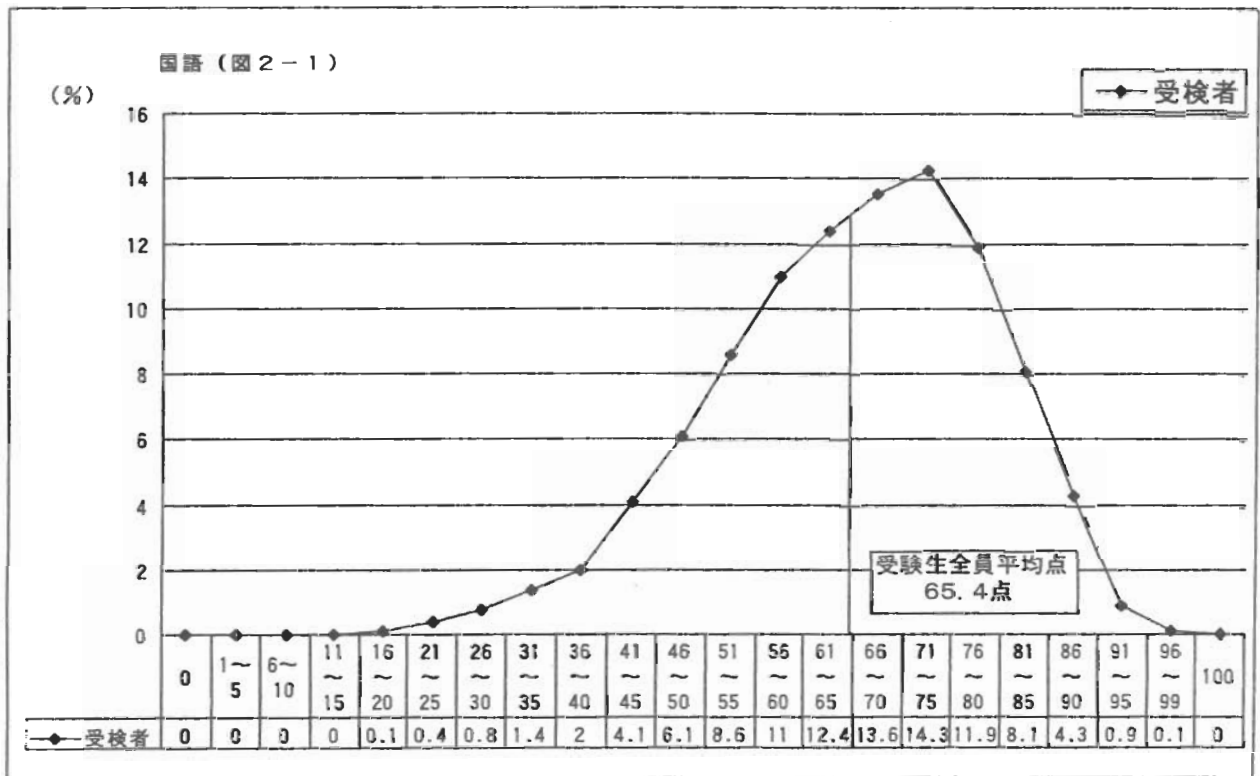
「聞くこと」については、基本的な能力は概ね良好と言える。

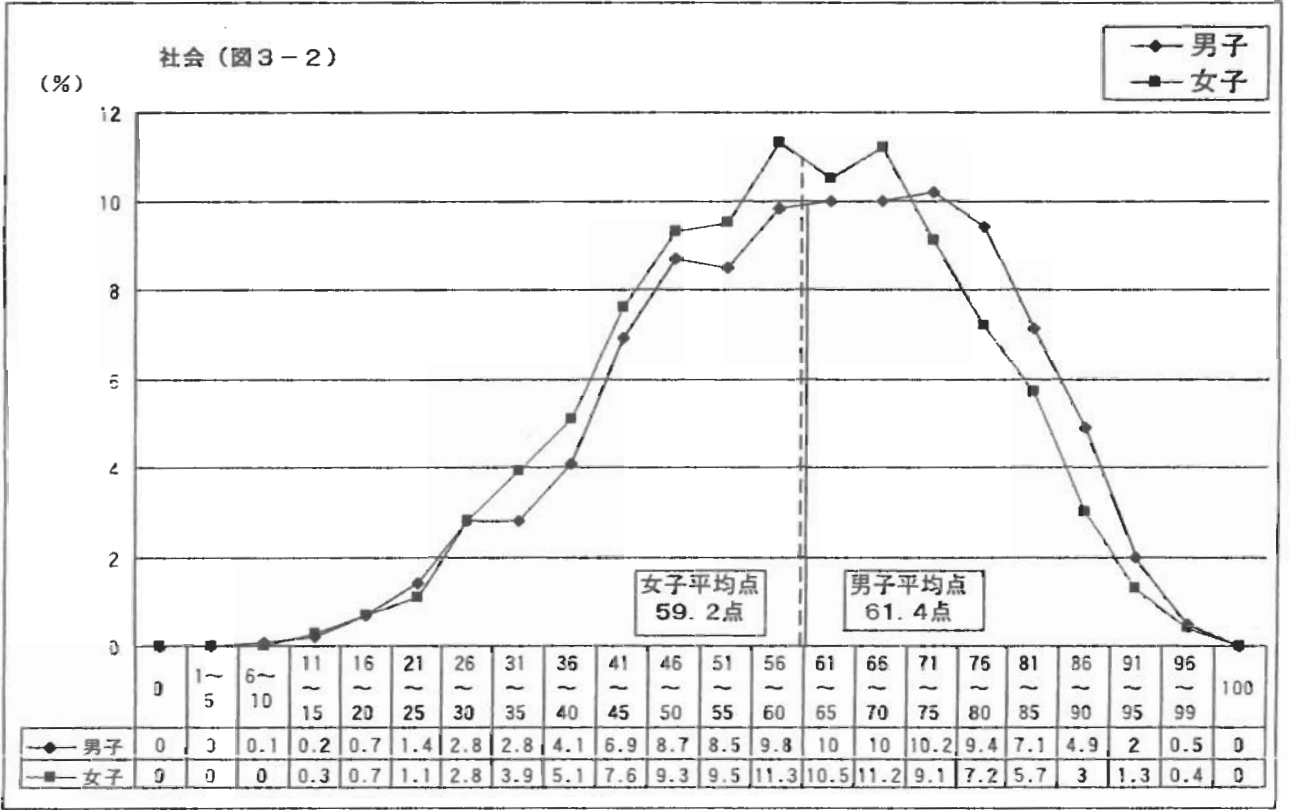
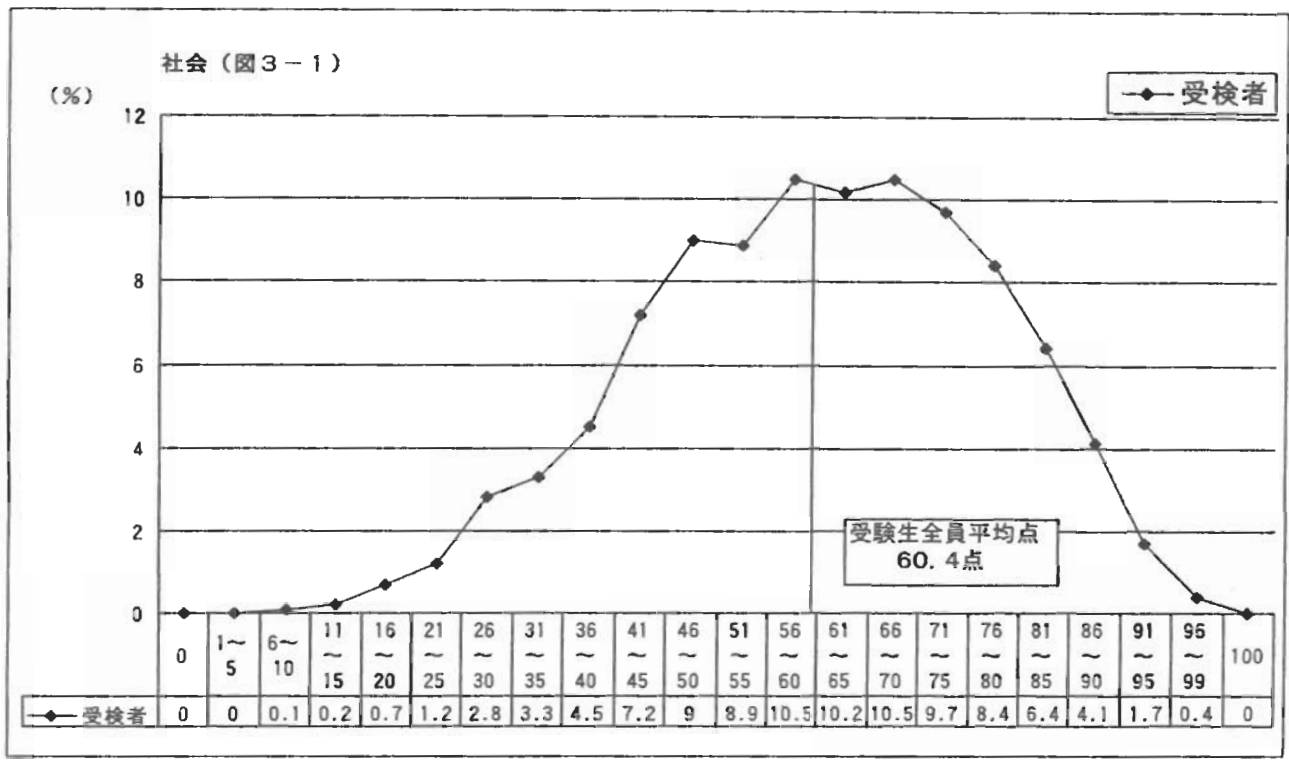
「読むこと」については、英文を読んで理解した時どのようなことができるか、という観点から多様な出題をした。全般的には概ね良好な結果であった。

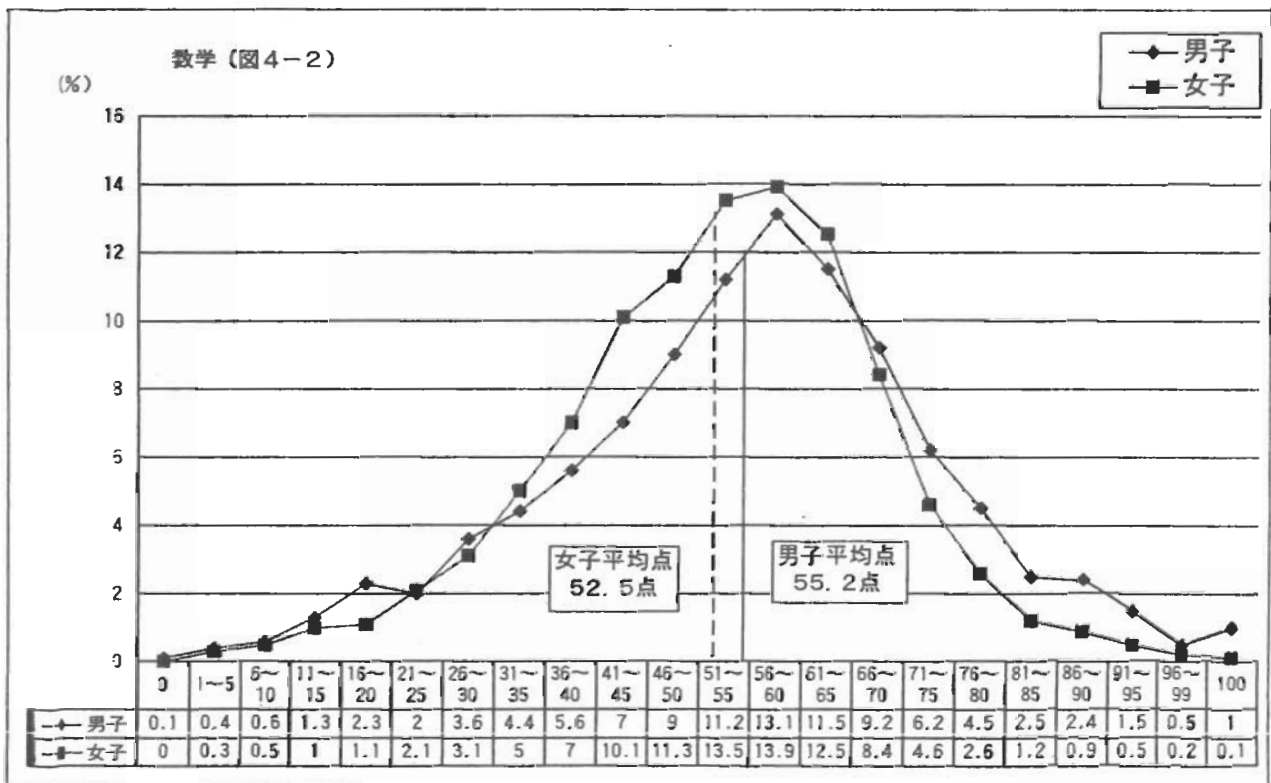
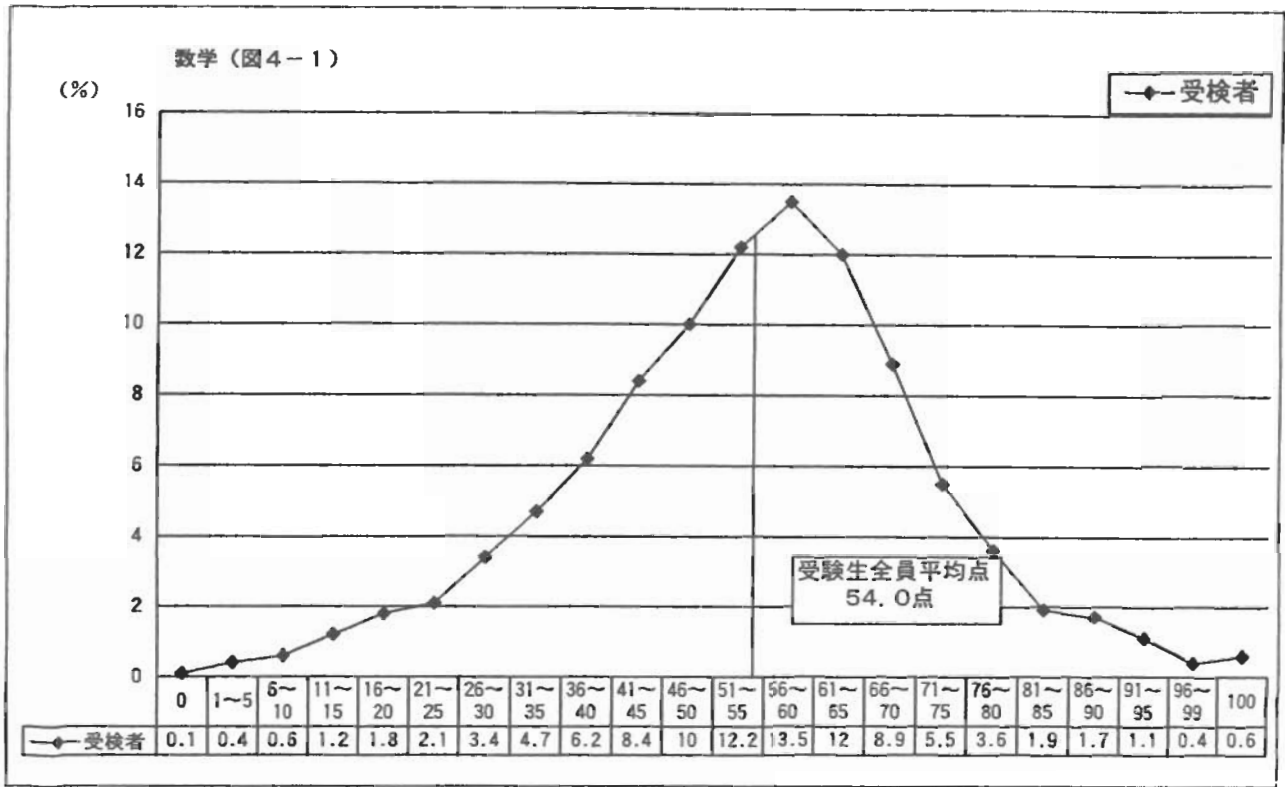
「書くこと」については、間違いを恐れず、日常的なテーマについてまとまった内容を、自分の言葉で表現できるような英語力の育成が求められる。同時に正確さを意識した表現力の育成も求められている。

なお、易しい英文を迅速に処理する能力をみるため、本年は小問数を従来よりも増やしたが、無答の状況から見て、適切な量であったと考えられる。

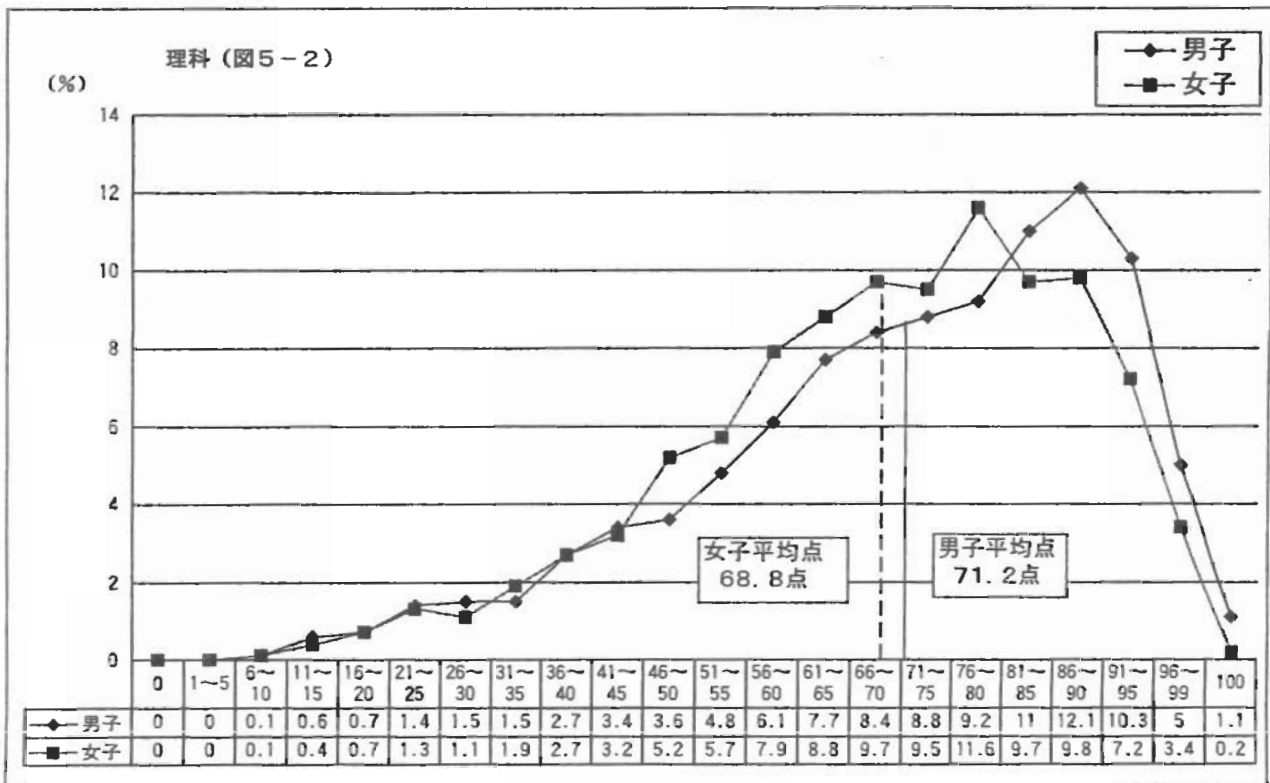
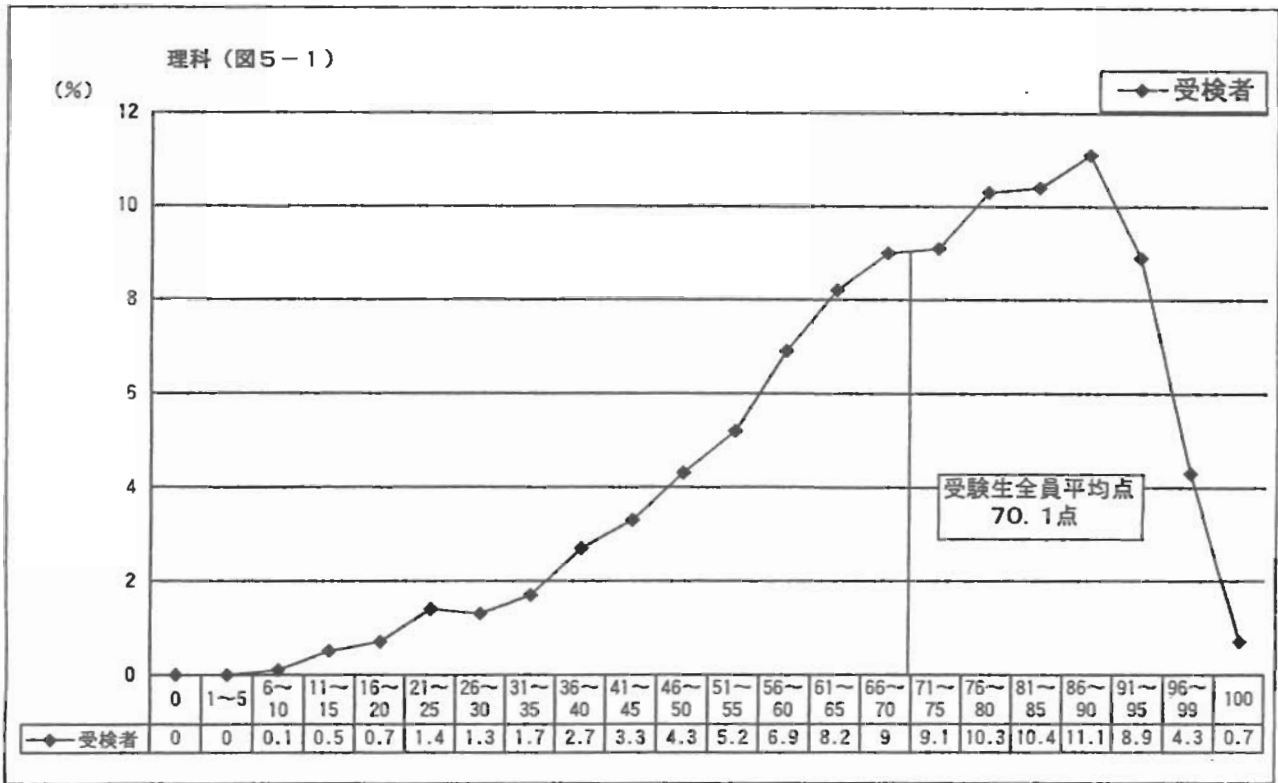


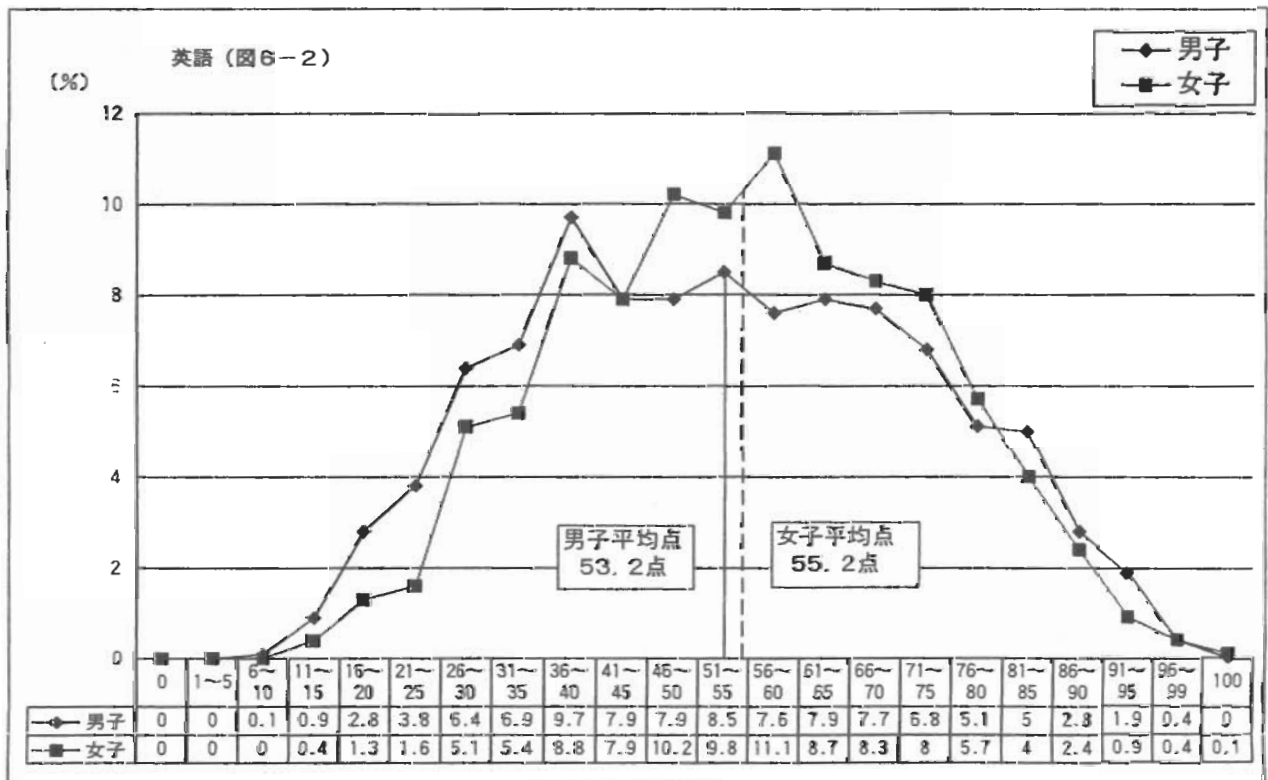
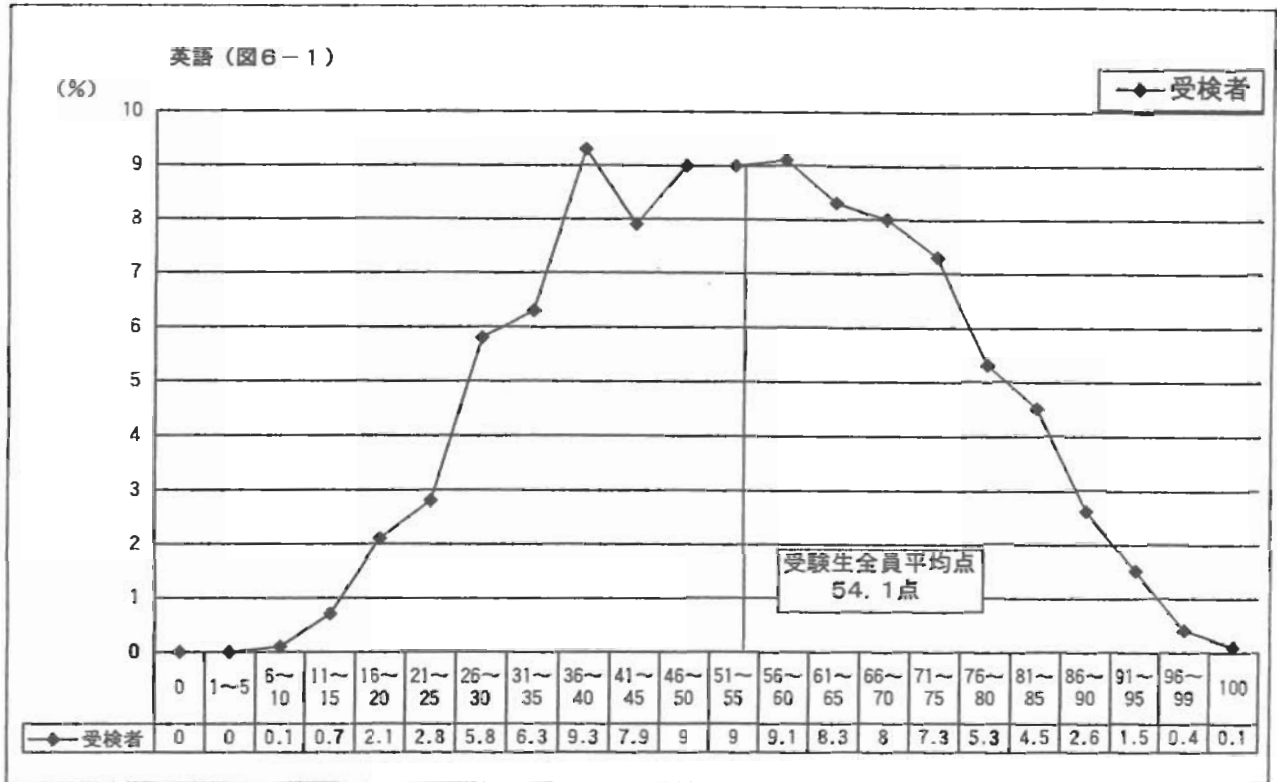






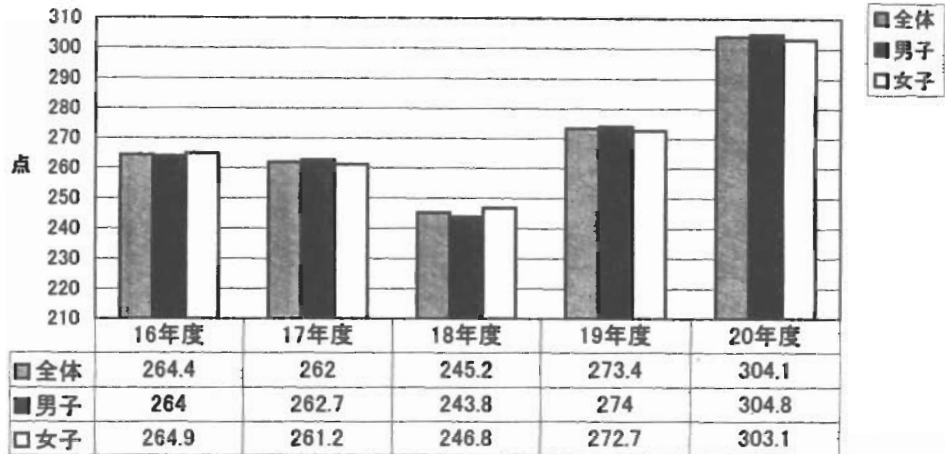




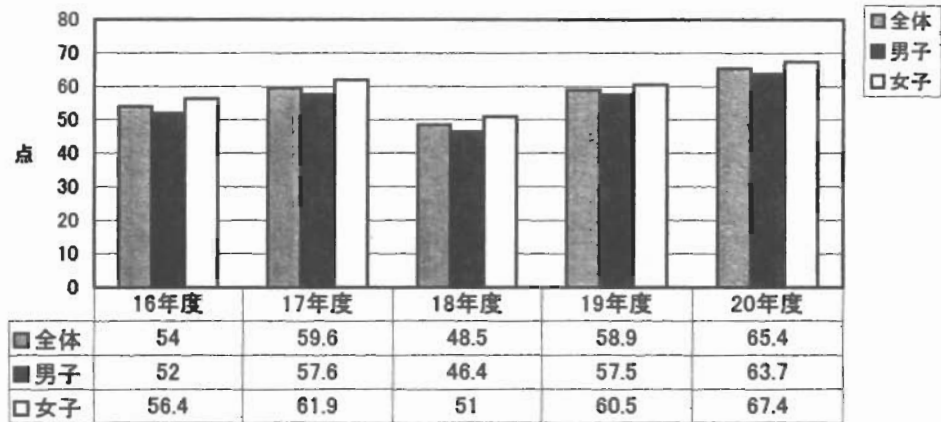


平成20年度 学力検査結果

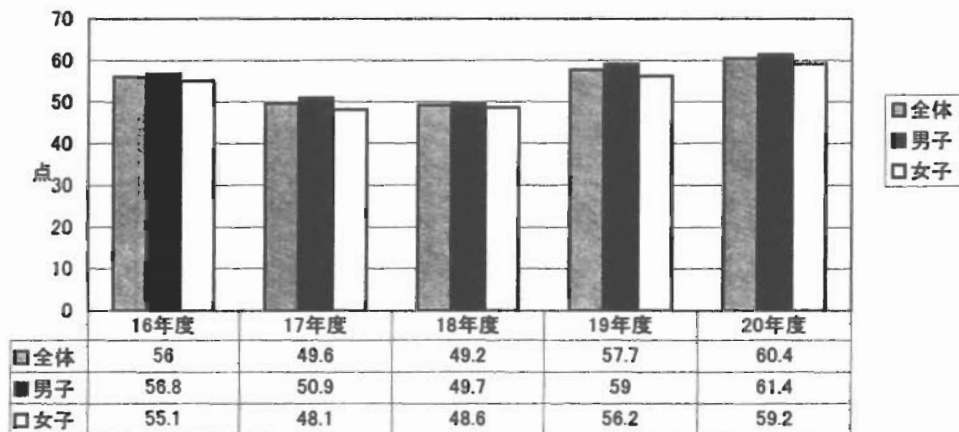
総合平均点(図1-3)



国語平均点(図2-3)

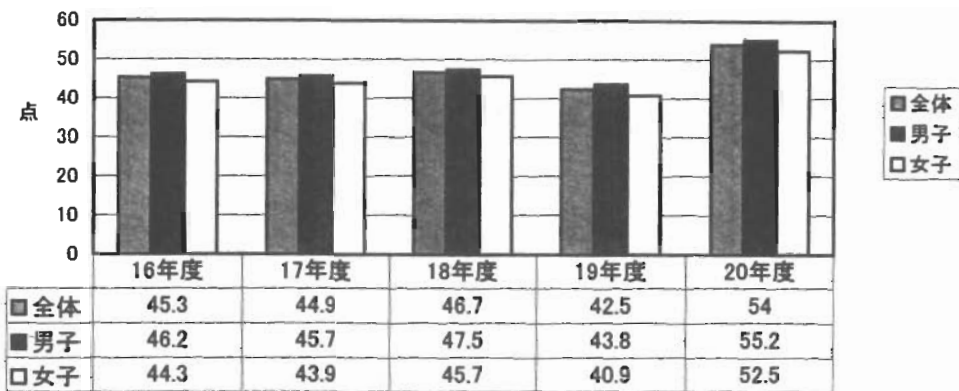


社会平均点(図3-3)

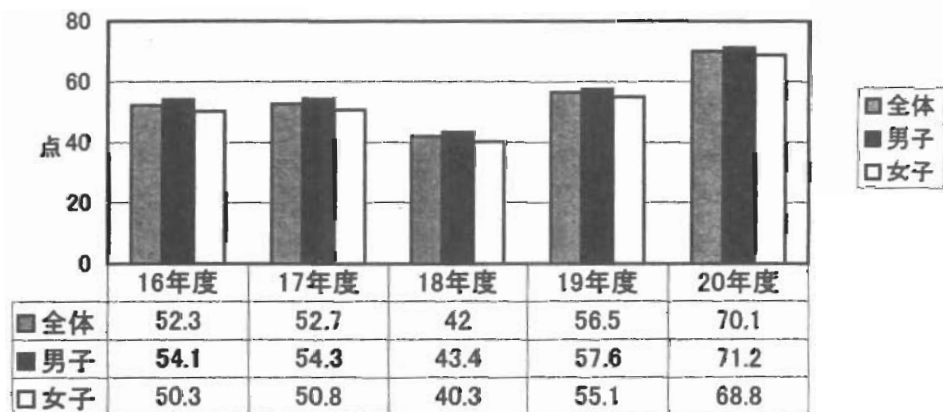


平成20年度 学力検査結果

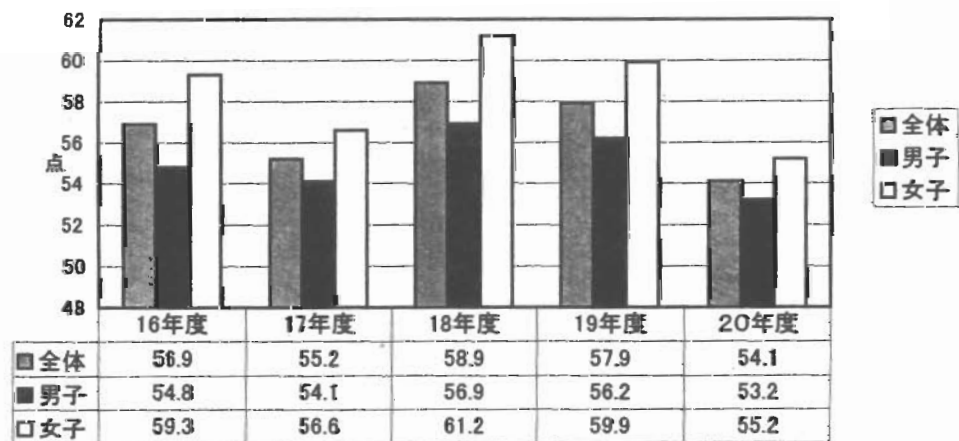
数学平均点(図4-3)



理科平均点(図5-3)



英語平均点(図6-3)



平成20年度 正答率調査表【国語】

問題			正答率(%)	誤答率(%)	無答率(%)	問題			正答率(%)	誤答率(%)	無答率(%)
一	一	ア	95.1	4.5	0.4	四	一	75.5	24.5	0.0	
		イ	76.1	21.0	2.9		二	36.8	49.4	13.8	
		ウ	57.2	39.7	3.1		三	54.3	38.3	7.4	
		エ	84.0	14.4	1.6		四	59.9	30.0	10.1	
		オ	98.6	1.2	0.2		五	94.4	5.3	0.2	
	二	ア	75.3	16.0	8.6		六	92.8	5.6	1.6	
		イ	86.8	8.4	4.7		七	63.6	36.2	0.2	
		ウ	82.1	13.4	4.5		八	得点	率	得点	率
		エ	92.0	5.3	2.7			0	1.0	8	19.1
		オ	89.5	6.6	3.9			1	0.0	9	20.0
三	(1)	65.4	34.4	0.2	2	0.2		10	12.1		
	(2)	93.0	6.8	0.2	3	0.6		11	8.4		
二	一	53.3	46.3	0.4	4	3.7		12	5.1		
	二	23.5	72.8	3.7	5	5.3		13	1.2		
三	一	A	81.5	17.7	0.8	6	7.2	14	1.0		
		B	80.7	18.5	0.8	7	14.8	15	0.0		
	二	45.9	54.1	0.0							
	三	a	89.7	8.8	1.4						
		b	85.0	12.6	2.5						
	四	49.4	50.4	0.2							
	五	21.4	65.2	13.4							
	六	51.2	48.1	0.6							

【社会】

問題		正答数(%) (部分点数)		誤答数(%)	無答数(%)	問題		正答数(%) (部分点数)		誤答数(%)	無答数(%)	
1	1	(1)	79.3	20.5	0.2	3	1	(1)	82.8	17.2	0.0	
		(2)	66.7	33.1	0.2			(2)	85.2	7.2	7.6	
		(3)	3点	28.1	69.2		2.7	2	(1)	46.8	46.6	6.6
			2点	0.0					(2)	48.7	50.9	0.4
		(4)	4点	2.9	56.9		7.8	3	(1)	3点	84.4	9.7
	3点		11.5	2点						2.3		
	2点		5.7	(2)					①	93.6	6.4	0.0
	1点	15.2	②		93.6		6.4	0.0				
	2	(1)	82.3	17.7	0.0		4	(1)	78.4	21.6	0.0	
		(2)	53.6	46.4	0.0			(2)	3点	91.0	6.4	1.8
(3)		79.7	20.3	0.0	2点	0.8						
(4)		①	3点	68.4	30.4	1.2	1	(1)	3点	40.0	49.7	9.7
		②	3点	80.1	16.4	0.0		(2)	2点	0.6	42.7	57.3
2	1	(1)	38.2	61.8	0.0	4	2	(1)	53.0	47.0	0.0	
		(2)	56.3	43.5	0.2			3点	77.4	10.1	3.7	
		(3)	3点	46.8	40.2	12.1	2点	0.8				
			2点	46.8			1点	8.0				
		(4)	3点	18.9	67.1	12.1	3	72.3	27.7	0.0		
	2点		1.8	(1)			72.5	27.3	0.2			
	2	(5)	53.0	37.2	9.9	4	(2)	3点	28.3	20.5	5.1	
		(1)	49.3	50.5	0.2			2点	34.1			
		(2)	9.4	76.6	14.0	1点	11.9					
		(3)	ア	2.1	24.2	0.0						
イ			8.6									
(4)	ウ	65.1										
(4)		41.7	57.9	0.0								

【数学】

問題		正答数 (%)	部分解答数 (%)	誤答数 (%)	無答数 (%)	問題		正答数 (%)	部分解答数 (%)	誤答数 (%)	無答数 (%)		
1	1	95.5		4.5	0.0	4	1	ア	51.5		46.4	2.1	
	2	90.6		8.8	0.6		1	イ	34.3		61.2	4.5	
	3	92.0		8.0	0.0		2	(1)	ウ	15.4		72.3	12.3
	4	80.7		17.9	1.4				エ	14.0		69.0	17.0
	5	78.9		20.1	1.0			(2)	オ	8.0		53.6	38.4
	6	88.5		11.1	0.4				カ	7.2		48.5	44.4
2	1	90.6		8.2	1.2	(3)	キ	15.6		78.4	6.0		
	2	79.9		17.7	2.5	5	1	78.2		14.2	7.6		
	3	69.0		28.7	2.3	2	2	56.1		29.0	15.0		
	4	87.9		8.8	3.3	3	3	9.7		44.1	46.2		
	5	87.9		8.2	3.9	6	1	44.1		49.5	6.4		
3	1	(1)	88.3		10.5	1.2	6	2	24.6		42.9	32.4	
		(2)	84.2		15.2	0.6		3	(1)	23.2		18.9	25.1
	2	37.2		21.1	19.3	3	(2)	4.1		62.4	33.5		

【理科】

問題		正答・部分点数		誤答数	無答数	問題		正答・部分点数		誤答数	無答数		
		正答	部分点					正答	部分点				
1	1	97.9		2.1	0.0	5	1	(1)	87.7		12.1	0.2	
	2	77.0		23.0	0.0			(2)	77.6		19.9	2.5	
	3	90.3		6.6	3.1		2	(1)	C	86.0		14.0	0.0
	4	84.6		15.2	0.2			(1)	D	81.9		18.1	0.0
2	1	(1)	53.2		46.4	0.4	6	(2)	50.7	9.5	33.8	6.0	
		(2)	65.1		31.0	3.9		1	(1)	28.7	58.3	11.9	1.0
	2	(1)	78.6		20.9	0.4		(2)	84.0		15.4	0.6	
		(2)	61.4		34.3	4.3		7	(1)	89.1		8.8	2.1
3	1	93.0		6.4	0.6	2	(2)		ア	85.2		12.9	1.8
	2	81.9		17.7	0.4		(2)		イ	85.6		12.5	1.8
	3	58.3		41.5	0.2		(2)		ウ	72.1		27.5	0.4
4	4	Z	92.0		7.0	1.0	8	1	72.9		26.3	0.8	
		特徴	82.5		12.9	2.5		2	(1)	64.5	4.3	24.2	7.0
4	1	(1)	84.2		14.2	1.6			(2)	34.9	0.0	63.0	2.1
		(2)	79.5		20.5	0.0		3	84.2		11.7	4.1	
	2	(1)	90.6		6.4	2.3	1	43.9		46.8	9.2		
		(2)	43.1		55.9	1.0	2	42.1		57.5	0.4		
								3	60.4		39.6	0.0	
								4	27.5		72.3	0.2	

【英 語】

1	問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	
	1	81.5	18.5	0.0	
	2	37.6	62.4	0.0	
	3	88.7	11.3	0.0	
2	問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	
	1	73.9	25.5	0.6	
	2	72.7	27.3	0.0	
	3	65.5	34.5	0.0	
3	問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	
	1	94.5	5.3	0.2	
	2	88.5	11.5	0.0	
	3	44.1	55.9	0.0	
	4	52.8	47.2	0.0	
	5	63.0	37.0	0.0	
	7	75.8	24.0	0.2	
4	問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	
	1	①	29.4	70.4	0.2
		②	66.5	32.9	0.6
		③	63.2	35.9	0.8
		④	79.5	18.7	1.8
	問 い	点 数	人 数(%)		
	2	4	6.0		
		3	12.1		
		2	16.6		
		1	19.1		
		0	46.2		
	0点のうち無答数(%)→				33.8
	問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	
	3	58.5	39.8	1.6	
問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)		
4	A	64.3	25.9	9.9	
	B	43.9	41.5	14.6	
	C	37.6	48.7	13.8	
	D	70.0	18.1	11.9	
問 い	点 数	人 数(%)			
5	6	3.3			
	5	11.7			
	4	9.4			
	3	8.6			
	2	11.5			
	1	11.1			
0点のうち無答数(%)→				55.6	
問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)		
6	①	49.9	42.1	8.0	
	②	74.5	18.9	6.6	
	③	58.5	31.2	10.3	

1	問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)
	a	86.7	12.7	0.6
	b	79.5	19.7	0.8
2	問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)
	②	58.3	41.1	0.6
	④	47.8	51.5	0.6
	⑤	54.0	45.0	1.0
3	問 い	点 数	人 数(%)	
	4	20.1		
	2	50.9		
	0	29.0		
	2点, 0点のうち, 無答が			
ひとつの者の数(%)→				5.1
ふたつの者の数(%)→				2.1
4	問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)
	A	6.6	62.6	30.8
	B	58.9	21.8	19.3
	C	4.5	52.4	43.1
5	問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)
	5	65.7	30.6	3.7
6	問 い	点 数	人 数(%)	
	8	5.1		
	7	1.8		
	6	6.6		
	5	2.9		
	4	9.0		
	3	3.3		
	2	9.7		
	1	5.3		
	0	56.3		
	解答の正誤にかかわらず, (%)			
5文以上書いた者の数→				0.8
4文書いた者の数→				31.4
3文書いた者の数→				6.4
2文書いた者の数→				10.5
1文書いた者の数→				14.8
無答の者の数→				36.1